

## ▼イラリス皮下注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】カナキヌマブ（遺伝子組換え） canakinumab (genetical recombination) 【分類】クリオピリン関連周期性症候群治療剤 [ヒト型抗ヒト IL-1 $\beta$ モノクローナル抗体]

【単位】▼150mg/V

【常用量】体重40kg以下：1回2mg/kg [最大8mg/kg]，体重40kgを超える患者：1回150mg [最大600mg] を8週毎に皮下投与

■最高用量まで増量し，8週以内に再燃がみられた場合には投与間隔を4週間まで短縮可

【用法】注射用水1mLで溶解して皮下注 [調製法注意]

【透析患者への投与方法】減量の必要なし [設定されていない] (1)

【保存期CKD患者への投与方法】減量の必要なし [設定されていない] (1)

【特徴】マウスハイブリドーマ細胞Sp2/0-Ag14で発現させたヒトIL-1 $\beta$ に対する遺伝子組換えヒト免疫グロブリンG (immunoglobulin G : IgG) 1モノクローナル抗体で，IL-1 $\beta$  に結合してIL-1 $\beta$  が受容体に結合することを阻害することによりその活性を中和する。IL-1 $\beta$  が過剰産生されることで慢性的な炎症反応や進行性の組織障害が引き起こされるクリオピリン関連周期性症候群に適用される。

【主な副作用・毒性】重篤な感染症，結核，好中球減少症，鼻咽頭炎，めまい，過敏反応，口内炎，下痢，体重増加など

【F】70% [sc] (1)

【tmax】2～7日 [sc] (1)

【代謝】イムノグロブリンの代謝経路により代謝消失すると推測 (1)

【排世】尿中に未変化体としては排世されないと思われる (5)

【CL/F】0.23L/day [sc] (1)

【t1/2】26日 (1)

【蛋白結合率】資料なし (1)

【Vd/F】8L/man (1) Vss 2.5L/man (1)

【MW】148000

【透析性】除去されないと思われる (1)

【更新日】20161221

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。